

薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」ツアー in 門司税関 報告書

日 時：令和元年7月25日（木）13時00分～16時30分

場 所：門司税関（北九州市門司区 門司港湾合同庁舎）

旧門司税関（北九州市門司区）

共 催：下関市、下関市薬物対策協議会

参加者：20名（小学生6名、中学生6名、保護者6名、薬物乱用防止推進員2名）

日 程：①13：00 市役所集合、出発（市マイクロバス利用）

②13：30～ 門司税関にて

- 門司税関職員による講義
- 麻薬探知犬によるデモンストレーション
- 監視艇の見学
- 下関保健所職員による講義

③15：45～ 門司税関出発

④15：50～ 旧門司税関見学

⑤16：30 市役所で解散

内 容：

①市役所集合

参加者20名及びスタッフが市役所新館1階ロビーに集合し、ツアー開会挨拶や注意事項等について説明。その後、市マイクロバスに乗り出発。



②門司税関にて

会議室にて門司税関職員がパワーポイントを用いて、税関の仕事や役割、不正薬物等の取締りや門司税関による摘発事例等の説明があった。その他、税関の役割等を説明するDVDの放映と、以前に空港の税関にて金塊の不正持ち込みの摘発を行った事例についてテレビで紹介されたものも放映され、子供たちの興味を引いていた。



続いて、麻薬探知犬を訓練するハンドラーの方より、麻薬探知犬が麻薬等を探知する仕組みやその訓練方法等について説明され、犬にとってはゲームとして麻薬や銃器等のにおいを探知しその場に座ることでハンドラーに知らせていること等を説明。今回は爆発物や貨物検査に対応している若手のオリバー号（オス、2歳半）によるデモンストレーションがなされ、ハンドラーとの信頼関係によって探知・摘発がなりたっていることに、参加者みんなが感心した。



班に分かれて港へ向かい、海上パトロールを行う門司税関の監視艇「げんかい」を見学。港に入港する船舶や外国に寄港した日本漁船等に対し、高速監視艇の機動性を活用して密輸入の取締りを行っており、税関と海上保安部では異なる区域の取締りを行っている。



班ごとによる監視艇の見学の間、会議室では保健所職員よりパワーポイントを用いて講義を行った。子どもたちもよく飲んでいるエナジードリンクによるカフェイン中毒、耐性についての話から薬物による最近の事犯等について説明し、危険ドラッグや大麻の恐ろしさをわかりやすく説明した。

④旧門司税関見学

門司港レトロ地区にある旧門司税関に移動。この建物は2代目の門司税関であり、初代の建物は焼失。現在は1階に常設の門司税関広報展示室があり、偽ブランド品やワシントン条約該当物品等の輸入してはならない物の展示の他、麻薬や覚せい剤を土産物の人形や靴の中に隠して日本に持ち込もうとした密輸手口の紹介がされており、参加者それぞれが興味をもって見学した。

見学終了後、門司税関の職員にお礼を述べ、市役所へと向かい市役所ロビーにて解散となった。

